

京築での8年間を振り返って

京築県土整備事務所 技師 木田悠介

京築県土整備事務所に配属されて、8年の歳月が経過した。思えば長いようで短い8年間だった。最初に京築県土整備事務所に登庁したときの気持ちと、今の気持ちでは、だいぶ変わったと思う。だから、8年間を振り返り、もう一度、初心を思い出し、今後の自分の業務へ少しでも活かせればと思う。

まず、最初の1、2年目は河川砂防課砂防海岸係に配属された。砂防海岸係では、砂防・海岸・港湾と幅広い分野の工事を行っており、私は先輩の現場に連れて行ってもらうことによって、これらの幅広い分野の工事について勉強することができた。また、先輩に教えていただきながら、砂防堰堤（本堤）の工事と、海岸護岸の工事に携わることができたのが、とても良い経験になった。

こうして1、2年目の業務を行っていくうえで、気が付いたのが学校の勉強だけでは業務はできないということである。なぜなら、いくら学校の勉強が出来ても、人とのコミュニケーションができないと、まったく業務が進まないからである。上司・同僚・業者・地元の住民など様々な人たちとの関わりの中で業務は進んでいく。だから私は業務に行き詰ってしまった。それでも上司・同僚のご指導・ご鞭撻により、前に進むことができた。そこで初めて、協力して何かを成し遂げることの重要性を理解した。

しかし、そのころの私は、まだ周りの方々がどのような業務をしているのかわからない状態だった。協力して何かを成し遂げる重要性は理解したが、実際にはまだ、自分の業務のことしか考えていなかった。

3～7年目は紆余曲折あり、あっという間に過ぎていった。時間が流れるのがとても速く感じた。業務だけでなく人生経験という面で、とても経験できるようなものではないことが経験できた。良い意味で私の人生観は変わった。

そして8年目を迎えた。この8年目は、研修会を開催するために関係機関と協議したり、会場の設営、講師の依頼、資料準備と今まで自分が経験できなかったことが経験できた。

また、8年目は工務職員とのコミュニケーションが求められた。なぜならば、調査依頼などの業務も任せてもらえるようになったからだ。そうしていくうちに、それぞれの課・係がどのような業務をしているのか、周りが見えるようになってきた。そしてまだ、私が本当の企画班の業務が出来ていないことにも気

づかされた。

また、8年目は良い上司・同僚に恵まれていた。業務で行き詰ったときなどはアドバイスをしていただき、難題を解決することが出来た。さらにアドバイスは公私に渡り、私の経験したことのないことをさせていただいた。

こうして8年間を振り返ると、やはり、いろいろな人との出会いがあり、そして、多くの人に助けを借りて8年間頑張れたと思う。京築県土整備事務所で、私に関わっていただいた方々の御恩を忘れずに、ご教示いただいたことを活かして、日々の業務に取り組んでいきたい。